|  |
| --- |
| ここに示している様式は一例であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられます。目標に照らして観点別の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしも例示の通りである必要はありません。 |

第＊学年音楽科　学習指導案

【音楽科学習指導案様式】　　題材の内容や時間のまとまりを見通して、授業をデザインします。

指導者　　＊＊　＊＊

１　題材名　　　＊＊＊＊＊＊

２　本題材の目標

（１）＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　（知識及び技能）

（２）＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊（思考力、判断力、表現力等）

（３）＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　　（学びに向かう力、人間性等）

Ａ表現（１）歌唱、器楽、創作

Ｂ鑑賞（１）鑑賞　いずれか一つ以上が入ります。

３　本題材で扱う学習指導要領の内容

　　第＊学年　＊＊＊（＊）＊＊

　　　ア

Ａ表現の場合がア、イ、ウ　Ｂ鑑賞の場合はア、イの項目が入ります。

指導事項に下部項目がある場合には、一つ以上を選択します。

　　　イ（＊）

　　　ウ（＊）

　　〔共通事項〕(1)

（本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「＊＊＊」、「＊＊＊」、「＊＊＊」）

複数ある場合、区別するために番号を付けます。

４　題材の評価規準

評価の順番を表しています。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ①知　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊理解している。  ②技　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊している。 | 思①　〔その題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなるものとして適切に選択した主な音楽を形づくっている要素〕を知覚し、＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊している。  題材の目標を基に、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）を参考に作成します。 | 態　　〔その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、生徒に興味・関心をもたせたい事柄〕に興味・関心をもち、＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊取り組もうとしている。 |

　※複数の領域や分野を関連付けた題材を構想する場合には、対応する領域や分野が分かるように、評価規準の文章の後に（歌唱）（器楽）（創作）（鑑賞）を入れるとよいでしょう。

(1)～(3)と項立てしないで、段落ごとに書いてもかまいません。

５　題材について

（１）題材観

題材のねらいと他学年との関連を入れて、題材構想の意図について記述します。

（２）生徒観

本題材につながるこれまでの学び、ワークシートの記述や実技テストの結果やレディネステストなどの実態調査（できるだけ数値化したもの）から、本題材における生徒の身に付けたい資質・能力などを記述します。

（３）指導観

生徒観に書かれた課題を受け、題材のねらいに迫るための指導上の手立てを記述します（カリキュラム・マネジメントを意識した手立てなども入れていけると、なおよいでしょう）。

６　題材の指導計画（５時間扱い）　　　　　　**○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面**

観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく題材の**内容や時間のまとまりごと**に、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価する場面を精選することが重要です。

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 学習内容・活動 | 知・技 | | 思 | 態 | 評価及び評価方法等 |
| １ | １ | |  | | --- | | 課題 |   ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  育成したい資質・能力や主体的・対話的で深い学びに関わる**主な活動**を入れます。**（※１）**  まとめ（振り返り） | ○ |  | ※３  ○指導に生かす評価場面は、題材の評価規準を（１時間ごとや）まとまりに落とし込み、何について見取るのかを具体で表すと共に、Ｃと判断される児童生徒についての手立てを示します。 | ○ | ①知：（◎記録に残す評価場面までにこの段階では何を理解しているとよいのか）について見取り、理解していない生徒には（理解できる様にするための手立て)を講じる｡  【記述、聴取】  態：（学習活動）に向かっていない生  徒を見取り、（活動に向かうための手立てなど）を行う。【観察】 |
| ２ | ２ | |  | | --- | | 課題 |   ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  まとめと振り返りは違いますので注意しましょう。   |  | | --- | | まとめ（振り返り） | | ◎ |  | 〇 |  | 思①：（◎記録に残す評価場面までに  この段階では何を思考・判断・表現しているとよいのか）について見取り、できていない生徒には（できるようにするための手立て）を講じる｡【記述、発言】  ①知：【記述、発言】  本時には、指導上の留意点を記述します。**（※２）** |
| ３  本時 | **目標：＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊**  本時の目標をゴシック体・太字で記述します。  １　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊   |  | | --- | | 課題 |   ２　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ３　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  矢印の整合性を意識してください。  正対します。  ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ４＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊   |  | | --- | | まとめ（振り返り） |   まとめが評価に結びつくようにします。 | その時間に育成する資質・能力を達成するための課題を設定します。 | 〇 | ◎ |  | ②技：（◎記録に残す評価場面までにこの段階では何が身に付いているとよいのか）について見取りできていない生徒には（できるようにするための手立て）を講じる　【観察・聴取】  生徒への働きかけ、配慮事項等を記述します。（※２）  ・～する。  思①：【記述、聴取】 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ４ | |  | | --- | | 課題 |   ・＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊  ＊＊＊＊＊＊＊＊＊  題材の最後なので、本時のまとめとともに、題材を通して何を学んだか、生徒が振り返る時間を設けます。   |  | | --- | | まとめ（結論）  振り返り | |  | ◎ |  | ◎ | ②技：【記述、聴取】（※４）  態：【観察、記述、聴取】（※５） |

**※１**　指導計画は、題材のまとまりを見通し作成します。したがって、学習内容・活動の欄には、その時間に育成したい資質・能力や主体的・対話的で深い学びに関わる主な活動を入れます。

**※２**　授業公開等を行う場合は、「本時」について、学習内容・活動を詳しく示したり、評価及び評価方法等の欄に、配慮事項を加えたりするとよいでしょう。

**※３**　矢印は、継続的に学習過程を見取る場合、その見取りをはじめてから（○指導に生かす評価場面）、見取りを終了し◎記録に残す評価場面までの期間を示します。

**※４**技能の◎記録に残す評価場面は、思の◎より後に設定します。

**※５**　態の〇指導に生かす評価場面は題材を通して適宜行い、題材の最後の時間に◎記録に残す評価場面を設定します。